

高齢者がん研究について

大部分のがんの最大の危険因子は、加齢とされています。しかし、若齢の人に比べ高齢者になぜがんが発生しやすいのかという理由は、未だ解明されていません。年齢とともに、細胞の核にある DNA の傷が増えてくることや、それを修復できなくなることが一つの原因ではないかと考えられています。また、私達のグループの前部長らは加齢により細胞の染色体末端にあるテロメア長が短縮することで、染色体同士が癒合し異常な核分裂を起こすことが、多くのがんの前段階（前がん状態や前がん病変）で増えてくることを明らかにしました。

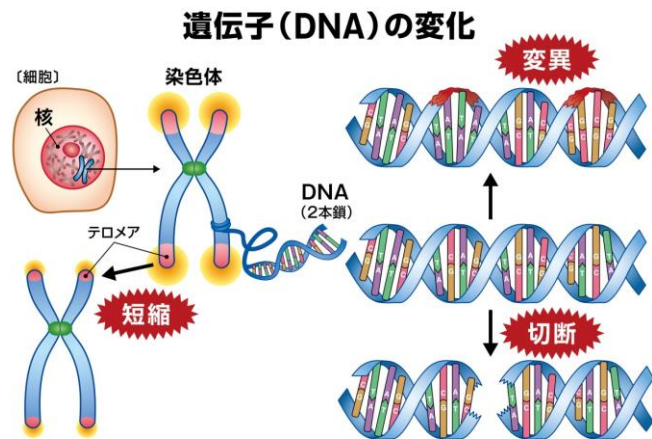
命の回数券とも言われるテロメアの長さと、がんや前がん病変、また他の加齢性疾患の関係をより詳しく研究することに加え、現在、私達は以下の 3 点について重点的に研究を進めています。

①前がん段階やがんでテロメア長が著明に短縮する機構（メカニズム）についての研究

②自己複製能と多分化能を有する「がん幹細胞」のテロメア制御機構についての研究

③血液細胞などのテロメア長を測定し、老化や前がん段階を簡易、迅速に検出する研究
加齢とがんの関係が重要なことは広く知られてきたことですが、加齢とがんはそれぞれが別の分野として研究が進められてきた経緯があり、その関連についての研究はまだこれからという状況です。

私達のグループでは、前部長らが開発したテロメア長の測定技術に加え、新たな視点や技術を用いたテロメア研究を行なうことで、加齢とがんや高齢者疾患の関係を明らかにし、その成果を社会に還元したいと思っています。
皆様のご理解とご協力をどうぞよろしくお願い致します。



グループリーダー

研究部長 石渡俊行